

令和5年度

助任小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的な学びにつながる、授業の導入や展開の工夫
- 伝え合い、学びを深めることができる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 学力向上担当 教諭 後藤 和哉	委員	校長(総括) 教頭(総括補佐) 教頭(総括補佐) 教諭(教務主任) 教諭(研修主任) 教諭(国語科主任) 教諭(算数科主任)	井上 圭三 藤長 あかね 細川 貴史 安倍 崇志 森 祐大 中村 茂美 木内 悠渡	教諭(1学年)中野 久美子・芝 三知世 教諭(2学年)春藤 奈緒美 教諭(3学年)近藤 綾香・松岡 美紀 教諭(4学年)青山 典代 教諭(5学年)後藤 和哉 教諭(6学年)武知 由花
	校長	井上 圭三	印	

校長

井上 圭三 印

【各校の取組状況の把握について】

学期に1回程度実施予定の学力向上検討委員会と各学年の授業研究会を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に対して落ち着いて取り組み、基礎的・基本的事項が身に付いている児童が多い。 ●学力の二極化傾向が見られ、計算や漢字などの基礎的・基本的事項が十分に身に付いていない児童がいる。	・基礎的・基本的事項が十分に身に付き、学びを深める場面で活用することができる。	・ペア・グループ学習を取り入れ、子どもたち同士で伝え合い学び合う機会を設ける。 ・子どものつまづきを分析し、既習事項についても指導する機会を設ける。 ・学校や家庭における学習習慣の定着を図るために、その方法の一つとしてICTを活用する。	・引き続きペア・グループ学習を取り入れ、学び合う環境を作っていく。 ・ICTの効果的な活用方法を探ったり共有したりして、子どもたちの学習にいかしていきたい。	学力の二極化がみられるものの、ペア・グループ学習での教え合い話し合いを取り入れることで、児童がお互いに理解を深めることができ、教師も本当に理解に苦しんでいる児童に対応することができやすくなった。また、タブレットの扱いにも少しずつ慣れてきている。	ペア・グループ学習で何を話し合っていたかを意識して取り組み、児童の発言や思考がつながるようにしていきたい。また発言する際の声の大きさが課題であるので少人数で発表する機会を設けたり、自分の意見をまとめたり伝えあったりする場面を設ける。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的に応じて考えを分かりやすく書く力や伝える力、聞く力が身に付いている児童がいる。 ●考えを伝えたり、考えながら聞いたりすることが、十分身に付いていない児童が多い。	・根拠を明らかにしながら自分の考えを発言したり、友達の考えと自分の考えを比べながら聞いたりするなど、互いの考えを伝え合うことができる。	・「心と体を向けて聞く指導」を全校で共通理解して行う。 ・ペア・グループ及び全体といった学習形態を工夫したり、ICT活用したりして、学び合うことのできる場を設定する。	・「心と体を向けて聞く指導」を引き続き行う。また、聞くときには自分の考えと比べながら聞いたり、聞きながら自分の考えをまとめたりすることを意識付けていきたい。	多くの児童については話を聞こうとする態度が育っている。一方で最後まで友達の発表を聞けずに自分の考えを発言する児童もいる。また、友達の意見と比べながら聞くことができても自分の考えをまとめることについて苦手意識をもつ児童が多い。	「心と体を向けて聞く指導」について引き続き取り組む。そして、次年度は友達の意見に自分なりの反応を返し、「聞くこと」とどまらず友達の意見から「つなげること」を意識して全校で取り組んでいきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの児童が、落ち着いて学習に取り組んだり、課題を最後までやり遂げたりすることができる。 ●学習への関心についても(1)と同様、二極化傾向が見られる。学習に対して進んで取り組む姿勢が身に付いていない児童が一部に見られる。	・自分で課題を見つけ、楽しみながら学習に取り組むことができる。 ・既習事項を活用したり、新しい方法を見出したりしながら、意欲的に問題解決ができる。	・「なぜ」「どうして」といった知的好奇心や、課題を達成したいと願う切実感を大切に、授業構成を考える。その際、ICT機器を活用するなどして、多様な学び方を展開する。 ・めあての設定や振り返り等の場面を大切に、自分の成長や疑問を意識して、学習に参加できるようにする。	・振り返りの場面を大切に、児童の振り返りを活用して単元の流れを意識づけ、取り組んでいきたい。	学習のふり返しをおこなうことで、児童の思考がつながり、意欲が継続する場面が見られるようになった。また、ICTを利用する頻度も増え、考えを表現したり共有したりする場面では効果を発している。一方で、環境面等から、対応に時間をとられ授業の進度やテンポに影響が出ることがある。	ICT環境に不安が残るものの、研修等で知り得たことを、効果的だと感じる場面では活用し、児童の学力向上、学習意欲の向上につなげていきたい。またICTに加え、児童の認識が深まる発問や支援のあり方を考えていきたい。

令和5年度 学力向上ロードマップ

